

# Kawaguchi Municipal High School Library News

No.7 2024年度 12月号 3年次図書委員

11月を過ぎると季節も冬になった気がします。秋はあっという間に過ぎ、いつ雪が降ってもおかしくないような寒い日が続いてますよね。昔、店前に「春夏秋冬」と出してる店があったとか。「秋がない」のとかけた「商い中」という昔の人のトンチだそうです。さて、12月号ではそれらにちなんだ作品を紹介したいと思います。

## 「はるなつふゆと七福神」

賽助 作 ディスカヴァー・トゥエンティワン 刊

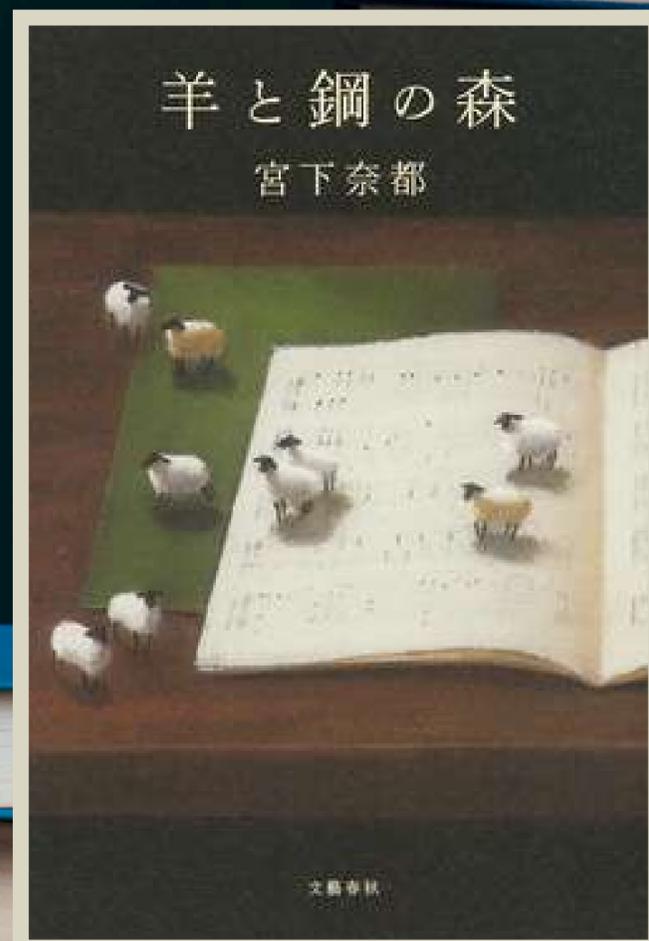
不況によって会社をクビにされてしまったニート女子、主人公榛名都冬（はるなつふゆ）は、ある日マイナー七福神の寿老人と福祿寿に出会います。神の強さは知名度によって決まる。そこで、都冬がインターネットを使って二人の神の知名度を上げることで都冬の願いをかなえるという交換条件のもと、PR活動を開始。PR活動を進めていくなかで、ほかの神たちとも出会っていくことによって、都冬が悩みながらも成長していく温かいストーリーです。



## 「羊と鋼の森」

宮下奈都 作 文藝春秋 刊

北海道の学校に通う外村はある日、体育館に置かれたグランドピアノを調律しているところを偶然目の当たりにします。それがきっかけで外村はその調律師のもとで調律師を目指すことを決めました。外村は卒業後、本州の専門学校で2年間調律を学び、その後北海道の江藤楽器に入社します。個性豊かな師匠たちの教えや、様々な人やピアノとの出会いから調律師として成長していくストーリーです。まるで本当に音が聞こえるような描写が特徴の素敵な作品です。



表紙の画像は出版社の許諾を得て掲載しています